



ILMR

# NEWSLETTER

No.

32

発行

2018年3月31日

佐賀大学 低平地沿岸海域研究センター ニューズレター

## CONTENTS

- 潟土・川ヨシ等地域資源を利用した地域循環型農業を目指した講演会報告
- 全国環境研協議会研究集会・特別講演報告
- COMPAS 成果報告シンポジウム開催報告
- 佐賀大学 低平地沿岸海域研究センター教員の異動先について

## 潟土・川ヨシ等地域資源を利用した地域循環型農業を目指した講演会報告

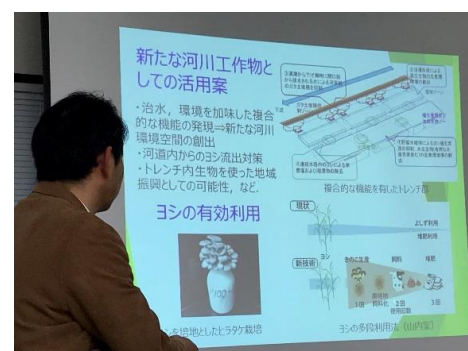
平成30年3月9日(金)14時より、鹿島市産業活性化施設の海道(みち)しるべにて、NPO法人(食と農と環境を考える)主催の上記講演会が開催された。



同法人では、地域循環型社会の構築を掲げた農業の実践的な活動を進めており、近年、干潟の泥を使った客土への利用を検討している。当センター・山西は、鹿島市七浦干潟での底質改善と生息生物の環境を通じた研究や六角川水系牛津川での植生管理とその応用的研究を進めているこれまでの縁から、今回の講演依頼となった。講演題目は、「有明海湾奥部におけるガタ土堆積とヨシ繁茂に関する現状とその有効利用

の検討」で、山西のこれまでの研究成果を織り交ぜながら、同法人が進めるガタ土利用についてコメントをした。同法人が採取したガタ土の分析について、公定基準の有害重金属はいずれも問題ことを指摘した。ただし、土壌pHやECは現状のままの使用は難しいため、作物に応じた適切な調整が必要であることなどを指摘した。講演会後に行われた参加者一同とのディスカッションでは、農業実務者から具体的な問題点などが質問され、循環型農業への強い意気込みを感じるとともに、引き続き、大学研究者としての立場から技術相談に応じることとした。そのほか、国土交通省、農水省および佐賀県の行

本センターは、「低平地・沿岸海域」を切り口とする国内唯一の学術研究機関として、有明海およびその沿岸低平地の諸問題はもとより、アジアの低平地研究の中核的拠点として広く研究成果を発信するとともに、恰好の研究・教育フィールドを活かした国際的・地域的な研究・教育を推進しています。



政サイドからの意見も述べられ、引き続き同法人への応援をしたいとの意向であった。参

加者は、地域の農業実務者を含め、30名ほどが集まった。なお、本公演会の模様は鹿島市ケーブルテレビの市民チ

ャンネルでも放送された。(山西博幸)

## 全国環境研協議会研究集会・特別講演報告

平成30年3月17日9時より、北海道大学工学部（北海道札幌市）にて日本水環境学会年会併設研究集会が開催された。本研究集会は水環境分野の行政施策や調査研究の一層の充実を図るため、毎年日本水環境学会年会と併設した形で開催されている。山西は、第1部の特別講演者の一人として招聘され、「有明海湾奥部水域における諸問題と取り組み事例ー地域特性に応じた放流水の質的基準作りのためのモニタリングー」と題して講演を行った。具体的には、有明海湾奥部の主要産業であるノリの色落ち問題を端に、順応的な水環

境マネジメントに基づく一方策としての下水処理場の季別運転の実情とその効果についての調査報告を行った。調査結果よりノリ養殖期の冬期に硝化抑制した下水処理放流水が、下げ潮の流下とともにノリ漁場まで到達し、ノリの生育に必要な DIN 濃度を NH<sub>4</sub>-N 濃度のみで供給していることや数値計算によるノリ漁場域への栄養塩の拡がりやノリの色落ち関係などを示すと同時に、今後の施策・指標作成に資するため、継続的なモニタリングの必要性などを述べた。聴講者からは、アゲマキが激減した原因や季別運転に伴うリン濃度



放流水塊とともに流下しながらの水質調査の様子（空撮）

の影響等について質問がなされ、実証実験的な取り組みへの関心が伺えた。当日は地方環境研究所の研究員を中心に81名の参加があった。(山西博幸)

## COMPAS 成果報告シンポジウム開催報告

有明海には様々な問題あり、その解決の糸口を探す研究が行われてきています。COMPAS プロジェクト（ハブ型ネットワークによる有明海地域共同観測プロジェクト）は、佐賀大学低平地沿岸海域研究センターを中心として、九州大学、長崎大学、熊本県立大学などの大学機関と連携をして有明海の環境・生物のモニタリングを行い情報収集するとともに、様々な現象について明らかにする研究を行ってきました。その成果について成果報告シンポジウムを2018年3月17日に開催しました。

西海区水産研究所の樽谷賢治さんには基調講演をして頂き、有明海の環境および水産業の状況や有明海・八代海等総合調査評価委員会の報告書につい

て紹介して頂きました。その後、5題の研究報告を行いました。本プロジェクトが行っているモニタリング調査において底棲生物の状況を佐賀大学の吉野健児さん、植物プランクトンの発生状況・取り組みを佐賀大学の木村圭さんが発表し、ここ数年の変化について報告しました。九州大学の山口創一さんからは有明海で深刻化した底層貧酸素水塊の形成メカニズムについてデータ解析とシミュレーションからの考察について解説していただきました。熊本県立大学の小森田智大さんからは諫早湾潮受け堤防締切後の諫早湾生態系について考察をしていただきました。最後に佐賀大学の速水祐一さんから再生方策の取り組みについての紹介があ

りました。それぞれの発表には多くの質問があり、改めて「有明海」への関心の高さを感じ撮ることが出来ました。



口頭発表とは別に9題のポスター発表もしていただき、こちらも方も議論に花を咲かせていました。

ご参加頂いた皆様、後にいろいろとお問い合わせ頂いた皆様、有り難うございました。

# 佐賀大学 低平地沿岸海域研究センター教員の異動先について

この度、平成30年3月をもって、低平地沿岸海域研究センターは廃止されることとなりました。低平地沿岸海域研究センター教員の異動先については以下のようにになりました。今後とも変わらぬご支援のほど、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

## 教員

- 荒木宏之・教授 → 2018年3月定年退職
- 山西博幸・教授 → 理工学部都市工学科へ配置換
- 日野剛徳・教授 → 理工学部都市工学科へ配置換
- 速水祐一・准教授 → 農学系教員として配置換（予定）
- 末次大輔・准教授 → 理工学部都市工学科へ配置換
- 木村圭・講師 → 農学系教員として配置換（予定）
- 吉野健児・特任助教 → 国立水俣病総合研究センターへ異動
- 藤井直紀・特任助教 → 農学系教員として配置換（予定）
- 金相暉・特任助教 → 農学系教員として配置換（予定）
- 折田亮・特任助教 → 農学系教員として配置換（予定）

## 事務員・技能補佐員

- 八尋満利子・事務補佐員 → 研究協力課へ配置転換
- 草場恭子・事務補佐員 → 研究協力課へ配置転換
- 江頭明子・事務補佐員 → 研究協力課へ配置転換
- 大坪美智子・事務補佐員 → 農学部へ配置転換
- 太田周作・技能補佐員 → 農学部へ配置換（予定）

## ● ● ● 編集後記 ● ● ●

桜が満開となる季節になりました。心もウキウキする時期ですが、一方で別れの多い時期でもあります。前号を発行するころ、吉野健児特任助教が佐賀大学を退職し、新天地に移ることになりました。吉野さんの今後のご活躍を祈念いたします。

さて、前号で終了とする予定だったニューズレター、年度末にいろいろありましたのでもう一号発行することにしました。最終号是非ご覧ください。

では、ホントの最後です。これまで有り難うございました。（藤井）

## 発行・編集

佐賀大学低平地沿岸海域研究センター  
〒840-8502 佐賀市本庄町1番地  
TEL 0952-28-8582 0952-28-8846  
FAX 0952-28-8189 0952-28-8846  
E-mail ilt@ilt.saga-u.ac.jp  
ホームページ  
<http://ilt.saga-u.ac.jp>